

まえがき

子どもの頃好きだったアニメ『北斗の拳 2』。その主題歌の一つに、「tough boy」という曲がありました。ハイテンポなロック調の楽曲、そして渋い映像。少年の頃の私のお気に入りの歌でした。しかし、当時はカセットテープも CD も持っていないでしたから、日常的に聴くことはできませんでした。

それから随分経って 30 代前後の頃、改めてこの曲の歌詞を目にすることがありました。

「Welcome to this crazy time このイカれた時代へようこそ」
「まともな奴ほど feel so bad 正気でいられるなんて運がイイぜ」
「Keep you burning 駆け抜けて この腐敗と自由と暴力のまっただなか」
「No boy no cry 悲しみは 絶望じゃなくて 明日のマニフェスト」
「どこもかしこも傷だらけ うずくまって泣いててもはじまらないから」
「どっちを向いても feel so sad だけど死には至らない気分はどうだい？」
「Keep you burning 駆け抜けて この狂気と希望と幻滅のまっただなか」
「No boy no cry 進まなきゃ 勢いを増した向かい風の中を」

思い描いていたよりも、ずっとシリアスな言葉に、衝撃を受けました。けれども、読めば読むほど、妙な説得力を感じました。「イカれた時代」「腐敗と自由と暴力」「狂気と希望と幻滅」…まさに現代の社会を歌っているのではないか…。貧困、格差、無縁化が深刻化する現代社会。この「どこもかしこも傷だらけ」の状況の中で、いかに生きるべきかを問われているような気がしました。

ところで、旧約聖書の預言者、ハバククも「イカれた時代」と向き合った人物でした。暴虐、暴行、争い、いさかいが蔓延する中で、神にすがりつき、人に訴えかけたハバクク。その彼の預言から、私たちは多くのことを学ぶことができるはずです。彼のことばに触れながら、共に「主よ」と叫び求めることができたなら、私たちの現実も違ってくるのではないかと思います。

1

ハバクク書 1 : 1-4

はじめに

- ▶ あなたはこれまでに、不条理な経験、道理に合わない仕打ちを受けたことがありますか？ もし、あれば分かち合ってみてください。
- ▶ 上であげたような納得のいかないことが身に降りかかってきた時、あなたはどのような態度、どのような行動に出ますか？

聖書研究

1:1 には「宣告。これは預言者ハバククが見たものである」とありますが、この「ハバクク」という人物については、詳しいことはあまりわかっていません。彼が、いつ、どこで生まれたのか。誰の子どもで、どのような地位にあったのか。聖書は何も語っていないのです。

しかし、一般的には紀元前 7 世紀の後半 ¹⁾、特にユダのエホヤキムの治世 (BC609-598 年) に ²⁾、活動した預言者だったと考えられています。

1) P. C. クレイギー著『十二預言書Ⅱ』新教出版社, 1989.p.127, パット&デイビッド・アレグザンダー編『カラー新聖書ガイドブック』いのちのことば社, 2010. p.503 参照

2) デイヴィッド・W・ベーカー著『ナホム書、ハバクク書、ゼパニヤ書』（ティンデル聖書注解）いのちのことば社, 2007. p.51 参照

【イスラエル王国】

ユダの姉妹国家イスラエルは、ハバククの時代から遡ること 100 年ほど前、BC722 年にアッシリヤによって滅ぼされました（Ⅱ列 17:1-6, 18:9-12 参照）。力の無い偶像を慕い求め、神様に罪を犯したからです（Ⅱ列 17:7-18 参照）。

そのさばきを間近で目撃したユダの人々は、その後どのように歩んだと思いますか？

身を引き締めて、神様に忠実に生きようとしたでしょうか？（エレ 3:6-10, エゼ 23:1-21 参照）

【ヨシヤ王】

エホヤキム王の前任者は「ヨシヤ」という王様でした。彼について列王記の記者は、次のように評価しています。「ヨシヤのようにモーセのすべての律法にしたがって、心のすべて、たましいのすべて、力のすべてをもって主に立ち返った王は、彼より前にはいなかった。彼の後にも彼のようなものは、一人も起こらなかった。」（Ⅱ列 23:25）

このヨシヤは、どのような人生の最期を迎えましたか？（Ⅱ列 23:28-30）

この出来事は、ユダの人々の信仰に、その生き方に、どのような影響を与えたと思いますか？

【預言者エレミヤ】

ハバククの預言活動は、預言者エレミヤが活動した時期（BC627-587）と重なります³⁾。

3) 津村俊夫「ハバクク書」『新実用聖書注解』いのちのことば社, 2008. p.1226 参照

エレミヤは、ヨシヤ王の時代から、どのくらいの期間、どのように、ユダに働きかけましたか？（エレ 25:3 参照） また、それに対して人々はどのような反応を示したのでしょうか？（エレ 25:3-4 参照）

●ハバククが、預言を語り始めた時、彼はどんな現実を目の当たりにしていましたか？ 彼の周囲の状況はどのようなものだったのでしょうか？（3-4） 簡単に説明してみてください。

【暴虐】

1:2、1:3 の「暴虐」という言葉は、ハバクク書で繰り返し用いられているもので（1:9、2:8、2:17）、この語が初めに用いられるのは、創世記 6:11 です。

これは、どのような場面ですか？ また、この時暴虐に満ちた地には、どのような結末が待っていましたか？（創 6:13）

このことから、ハバククの身を置いた社会は、どのようなものだったと想像することができますか？

【みおしえ・さばき】

「みおしえ」⁴⁾ は社会秩序の基礎となるものとして、神様が与えてくださったものでした。1:4 によると、それは麻痺した状態であった、眠った状態でした⁵⁾。

また、「さばき」は、「義」「公義」「正義」とも訳される語で、正当な統治には不可欠なものでした。しかし、その「さばき」は曲げられていました。当時の社会では、どのような事が行われていたのでしょうか？

4) 別訳「律法」

5) 津村俊夫「ハバクク書」p.1228 参照

●理不尽な現実の中で、ハバククは誰に向かい、何をしましたか？（2-3）

この時、彼はどのような思いでいたのでしょうか？

まとめ・適用

▶詩篇 13:1-6 を開いてみてください。この詩篇の作者は、ハバククと同様に「いつまでですか」と神様に問いかけました。直面している問題が、個人的なものか、集団的なものかの違いはありましたが、彼らとは同じように神様に迫ったのです。

彼らは、なぜ「いつまで」と尋ねたのでしょうか？ この言葉にどのような思いが表れていますか？

▶あなたは、周囲の環境や社会の状況をどのように見えていますか？

そして、そのことを神様との関係の中で、どのように位置づけていますか？

2

ハバクク書 1 : 5-17

はじめに

- ▶ 「不正」「不平等」「不道德」と聞いて、あなたはどのようなものを思い浮かべますか？
 - ▶ 世にはびこる悪を、あなたならどのように払拭しますか？
-

聖書研究

- ハバククは「なぜ、あなたは私に不法を見させ、苦悩を眺めておられるのですか。」(1:3) と神様に訴えかけました。
その彼に、神様は何と答えられましたか？ (5)
この言葉を聞いた時、ハバククはどのような期待を持ったと思いますか？
- ハバククが目当たりになっていた国内の「暴虐」「暴行」「闘争」「争い」に、神様はどのような解決策をもたらされましたか？ (6-11)
 - ー 神様の計画を実行する器であった「カルデア人」は、どのような人たちでしたか？ (6, 7, 8, 10)
- 「自分の力を自分の神とする者」が迫ってくる事実と直面したハバククは、神様に対してどのような問いを投げかけましたか？ (12-14)

ー 「聖なる方」「岩」という表現には、どのような意味合いが込められていると思いますか？（詩 22:3-5, 申 32:4 参照）

ー 1:13 で、ハバククは皮肉ともとれるような表現を用いています。ここから、彼のどのような思いが読み取れますか？

●カルデア人は蛮行を繰り返し（15）¹⁾、その成功の故に偶像礼拝を行おうとしていました（16）²⁾。その現実を、ハバククはどのように受け止めていたと思いますか？

まとめ・適用

▶ハバククは、神様に対して「なぜ黙っておられるのですか」と尋ねました。
あなたも同じような思いを抱いたことがありますか？
それは、どのような時ですか？

▶1:5-11 に示された計画は、1:2-4 の問いに対する神様の応答でした。それに不服を唱えるハバククを神様はどのように見ておられたと思いますか？
また、あなたが疑問をぶつける時、神様はどのように答えてくださると思いますか？

1) Ⅱ列 24:12-16, 25:11-12, 25:18-21 参照

2) Ⅱ列 11:8, ホセ 11:2 参照

3

ハバクク書 2：1－5

はじめに

- ▶ これまでに、神様が自分から目を背けておられる、沈黙しておられると感じたことはありますか？ それはいつですか？
 - ▶ その時、あなたはどのような気持ちになりましたか？
-

聖書研究

- 1:13 を読んでみてください。嘆きとも怒りとも取れる問いを神様に投げかけたハバククは、次にどのような行動に出ましたか？ (2:1)
 - － 「物見のやぐら」や「砦」は、遠くまで見渡せるように、高台に設けられた場所でした。ここに立って、「主が私に何を語るか」を見ようとしたことから、ハバククのどのような思いが読み取れますか？ (詩 5:1-3 参照)
- ハバククに神様は何と答えられましたか？ (2:2-3)
 - － 「板の上に書き記す」ことは、記録し、保存するための作業でした¹⁾。なぜ、その場で語られるだけでなく、文書として残される必要があったのでしょうか？ (2:3, イザ 30:8 参照)

- ー 「急使として走る」と訳されている言葉の意味は、あまりはっきりとしませんが、語られたことの緊急性を示していると考えられています²⁾ (2:3 参照)。神様は、どのような思いで、この幻を与えられたのでしょうか？
- ー 「定めの時」「終わり」とは、何の「定め」、何の「終わり」だと思えますか？ 1章で学んできたことから、どのようなことが考えられますか？
- ー 神様の語られた「必ず来る。遅れることはない。」という言葉で、「いつまでですか、主よ。」(1:2)と尋ねていたハバククは、どのように受け止めたと思いますか？

●2:4の「彼」とは、「自分の力を自分の神とする」カルデア人のことを指しています。彼の「うぬぼれ」³⁾はどのような形で、具体的な行動に表れていますか？ (2:5)

●2:4の「信仰」は、「真実」や「信頼」とも訳せる言葉で、神様の真実や神様への信頼を指すものと考えられています。

神様への信頼によって⁴⁾生きる「正しい人」とうぬぼれた「彼」とでは、その歩みにおいて、またその行く末において、どのような違いがありますか？ (箴 14:12, 16:25 参照)

1) デイヴィッド・W・ベーカー著『ナホム書、ハバクク書、ゼバニヤ書』(ティンデル聖書注解) いのちのことば社, 2007. p.69 参照

2) 津村俊夫「ハバクク書」『新実用聖書注解』いのちのことば社, 2008. p.1230

3) 直訳「心が彼のうちで膨らんでいること」

4) もしくは「神様の真実の故に」

まとめ・適用

- ▶ 神様の積極的な働きがなされているように思えない時、「偽ってはいない」
「必ず来る」という神様の約束は、あなたにとってどのような意味を持ちますか？ 「はじめに」で、話し合ったことを思い出しつつ、考えてみてください。
- ▶ ヘブル人への手紙 10:35-39 を読んでみてください。ここから、神様のことばを信頼することについて、どのようなことを教えられますか？

4

ハバクク書 2：6-20

はじめに

- ▶ 「覇権国」「一流企業」「有力者」と聞いて、どのようなものを思い浮かべますか？ 一つずつあげてみてください。
- ▶ 上であげたような「強者」の前に、あなたはどのような存在だと思いますか？ それが、何か不正を働いていたとしたら、あなたはどのように対処しますか？

聖書研究

【わざわざいだ】

2:6-20 では、繰り返し「わざわざいだ」という言葉が使われています。これは、他の箇所では「ああ。」とも訳されているもので¹⁾、しばしば葬式の葬送歌でも用いられました²⁾。この箇所では、カルデア人に、深刻な脅威が迫っていることを叫ぶために用いられています³⁾。

1) イザ 5:1-30 参照

2) デイヴィッド・W・ベーカー著『ナホム書、ハバクク書、ゼパニヤ書』（ティンデル聖書注解）いのちのことば社, 2007. p.74 参照

3) “grievous threatening cry of the prophets” Koehler & Baumgartner, The Hebrew and Aramaic Lexicon of the Old Testament, Brill 2001. p.242 参照

2:6-8、2:9-11、2:12-14、2:15-17、2:18-20 と五つの「わざわざ」が語られていますが、それはそれぞれどのようなものですか？ 短く説明してみてください。

【暴虐】

1:2、1:3 で用いられていた「暴虐」という言葉が、2:8、2:17 で再び使われています。カルデア人は、国や町、そのすべての住民に暴力をふるい、レバノンの森や獣に対して「暴虐」行為を図りました。彼らは、人の血を流し、自然を破壊したのです。その彼らに対して、どのような宣告がなされていますか？（7-8、17）

【栄光】

カルデア人の国、バビロンには壮麗な首都がありました。それは、彼らが全世界からかき集めてきた富の表れでした（2:6、2:12 参照）。

また、その都の守りは堅く、難攻不落と考えられていました（2:9 参照）。この町は、彼らにとっての栄光の象徴だったのです。それが、やがてどのような結末を迎えると語られていますか？（13）

うめぼれていたカルデア人にさばきが下される中で、神様の栄光はどのようになると言われていますか？（14）

また、それは何故だと思いますか？（エレ 51:9-10、51:47-51 参照）

【偽りの神々】

「自分の力を自分の神とする」カルデア人の都には、50 以上の神殿があった⁴⁾と言われています。また、1:16 では、彼らが引き網にいけにえを献げていたということが記されています。彼らは、その神々が自分たちに栄華

をもたらしたものだと考えていたのです。この偶像礼拝について、2:18-19 では何と語られていますか？⁵⁾

ものの言わぬ神々とは対照的に、主は聖なる宮に君臨しておられます。この方は、人々にどのような態度を求めておられますか？（20, 詩 46:8-11）

まとめ・適用

▶2:6-20 では、暴虐を働いていたカルデア人に対するさばきが述べられていました。ほぼ無敵に思えた彼らと彼らの頼りにしていたものが、脆くも崩れ去っていったのです。このことから、神様について、またその神様の前に生きる人間のあるべき態度について、どのようなことを学ぶことができますか？（詩 9:1-20 参照）

4) D・J・ワイズマン, エドウィン・ヤマウチ著『聖書と考古学』いのちのことば社, 1984. p.70 参照

5) もし余裕があればエレ 50:2, 50:33-38, 51:41-44, 51:52 も参照のこと

5

ハバクク書 3：1－19

はじめに

- ▶ 聖書に記されている神様の奇跡の中で、あなたが一番心惹かれるものは、何ですか？
- ▶ 苦難や試練が迫る時、上であげた事柄は、あなたにとってどのような意味をもちますか？

聖書研究

- 3:2 の「うわさ」は、「名声」や「記録」とも訳される言葉で、真偽の判別のない不確実な情報というよりも、単に「他者から伝え聞いたこと」を意味するものです。特にこの箇所では、ユダの民族が経験した過去の出来事についての話を指していると思われます。その事実をもとに、ハバククは神様に何を求めていますか？
- 「パランの山」（申 33:2 参照）、「光」（出 34:29-34 参照）、「疫病」（詩 78:44-51 参照）、「山」（出 19:16-18, 詩 114:1-8 参照）、「川」（出 7:19-25 参照）、「海」（出 14:21-31 参照）、「大水」（出 15:1-18 参照）など、この 3 章では出エジプトの出来事を思い出させるモチーフ、表現が繰り返し用いられています。

「暴虐」に胸を痛み、「強暴で俊敏な国民」が迫ってくることを嘆いていた
ハバククが、なぜ、ここで 1000 年前の歴史をもち出してきたのでしょうか？¹⁾

- 3:3-11 には、神様と自然界との関わりが象徴的に描かれています。ここから、神様について、またその御業について、どのようなことを学ぶことができますか？
- 文字通り天も地も治めておられる神様は、人の歴史にどのように関わられますか？ (6, 12, 13b-14) また、その神様の前では「悪しき者」(1:4) や「カルデア人」(1:6) はどうなってしまうと思いますか？
- この神様は、誰のため、何のために業をなされますか？ (13a)
- 過去の出来事に思いを巡らし、将来の御業に目を向けたハバククは、次にどのような現実を見つめていますか？ (17)
- 目覚ましい変化、望ましい状況が訪れない中、ハバククはどのように応答しましたか？ (16, 18-19) また、この彼の態度を支えていたものは、何だったと思いますか？

まとめ・適用

- ▶ハバククは、神様と神様の民の歩みを振り返った上で、神様に「それを繰り返してください」と祈りました。では、あなたは普段どのように祈っていますか？ 聖書の言葉とあなたの祈りは、どのように結びついていますか？

1) もし余裕があれば詩 77:11-20 も参照のこと

▶期待と現実とのズレがある中で、神様と共に生きるということについて、今回の箇所から、またハバクク書全体からどのようなことを学ぶことができますか？

このテキストを使うにあたって

ハバクク書は、多くの学生にとって、馴染みのない書でしょう。聖書研究会の参加者の中には、初めて開く人も少なくないはずです。ですので、司会者の学生には、それなりの準備が求められます。具体的には、以下の手順で備えをしてみてください。

- ①まず、一人で「はじめに」から「まとめ・適用」まで、全部の質問に答えてみてください。そのようにして全体の流れをつかみ、御言葉と御言葉、質問と質問の結びつきを確認してください。
- ②余裕があれば、カッコの中や脚注の参照箇所にも目を通してみてください。そうすれば、御言葉の理解が深まりますし、参加者と共に参照すべき聖書箇所が何処なのかを判断することができるでしょう。逆に司会者が読んでおくだけで十分だと思った場合は、聖研中は飛ばしても構いません。
- ③また、何処で区切りを設けることができるかを考えてください。このテキストは、観察の質問や参照箇所が多いのが特長です。あまり触れることのない書を学ぶのですから、それは仕方ないのですが、一気に学ぼうとすると参加者も疲れてしまいます。ですので、一課を何度かに分けて学ぶなどの工夫が必要でしょう。前回のおさらいをしたり、「はじめに」の質問を改めてやってみたり、と繋がりを意識できる形で、丁寧に学ぶことを進めていってください。
- ④何よりも大切な準備は祈りです。御言葉を通して、交わりの内に、神様が働いてくださることを期待して、聖研にのぞみましょう。司会者にも豊かな知恵が注がれますように。

あなたがたのうちに、知恵に欠けている人がいるなら、その人は、だれにでも惜しみなく、とがめることなく与えてくださる神に求めなさい。そうすれば与えられます。

(ヤコブの手紙 1：5)

